

2023 年 9 月 1 日配信

稲山会オンライン通信⑦

発行人：行方正幸 発行所：稲門山の会事務局 TEL 043-486-0239 FAX 043-486-0239

1. 谷川岳だよ全員集合！！(6月4日(日)～6日(火))



今年は、OB会員全員を対象に、下記の通り6月4日(日)～6日(火)に谷川岳で1泊2日(㊹班)若しくは2泊3日(㊸班)の合宿を行いました。

記

- (1) 日時： 2023 年 6 月 4 日(日)～6 日(火)
- (2) 集合場所： JR 水上駅
- (3) 合宿所： 1 泊目：谷川温泉 檜の宿「水上山荘」1.3～1.5 万円
2 泊目(希望者)：土合山の家
- (4) コース：
 - ・ 6/4 JR 水上駅→谷川温泉
 - ・ 6/5 谷川温泉→水上駅→㊸天神平ロープウェイ→谷川岳→天神平→土合山の家(泊)
㊹土合→一ノ倉沢(雪渓散策)→土合(解散)
 - ・ 6/6 ㊸土合山の家→一ノ倉沢(雪渓散策)→土合(解散)
- (5) 連絡先：行方正幸(S50 卒) yukuemnamaekata@gmail.com 080-3701-3421
笠原 豊(S40 卒) kasaani2610@gmail.com 090-8112-4191

(6) 合宿参加者(11人)

廣瀬舜一 (S38 卒)
 山根一純 (廣瀬 OB 友人)
 打矢之威 (S37 卒)
 笠原 豊 (S40 卒)
 長谷川徹 (S40 卒)
 斉藤雄二 (S41 卒)
 金子治雄 (S41 卒)
 新井昭夫 (S46 卒)
 行方正幸 (S50 卒)
 鹿間行喜 (S51 卒)
 柴原 至 (S52 卒)



斉藤OBの挨拶

1日目：谷川温泉「水上山荘」

14:30 に JR 水上駅集合だったが、三々五々、谷川温泉水が上山荘に集合し、のんびりと赤谷川の清流を眼下に露天風呂に入る。

18:30 から宴会場合宿開始。いつものとおり、廣瀬 OB の挨拶、斉藤前代表の乾杯となり、後は美味しい飯と、温いポカポカの🔥で火照った身体に美味しい酒がどんどん染み込むにつれ盛り上がり、恒例の近況紹介で、廣瀬 OB が大学時代の左翼女子と保守青年のプラトニッククラブと手ぬぐいの蘊蓄を語れば、打矢さんと柴原君と鹿間君の 100 円から 200 円の「一つ出たホイ」にかかわるところなんか、昭和ロマンだなあ〜と、昔が懐かしくなりました。このように、温泉に素晴らしい仲間と、酒があれば、ほぼ天国ですね。

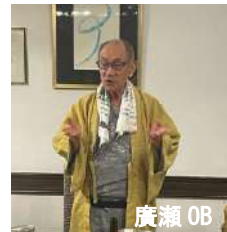
翌朝 7 時 30 分これまた美味しい朝食で、出る前の粗岨全面が見えるラウンジのコーヒーがこれまた、レトロな味で最高でした。

笠原さん、いろいろとご協力頂きありがとうございます。先輩をこき使って申し訳ありません。笠原さんの緻密な進行で素晴らしい合宿になりました。ありがとうございます。

最後に言いたしっぺの廣瀬 OB から、来年は中央アルプスを登れる温泉で合宿をやろうよと、力強い提案がありました。(行方)



乾杯



廣瀬 OB



打矢 OB



笠原 OB



長谷川 OB



新井 OB



金子 OB



まったり二次会

2日目～3日目：谷川岳登山他

●翌日の登山隊3名は、谷川岳頂上近くの標高1850m付近で残雪に阻まれて引き返し、無事下山し、土合山の家泊まりました。

翌々日、一ノ倉沢出合へ行ってきました

昨日、谷川岳から下山したので報告します。

6/4（日）谷川温泉水上山荘にて稲門山の会合宿

6/5（月）谷川岳ロープウェイ→天神平→谷川岳肩の広場手前の残雪前（高度約1850m）で引き返し→天神平からロープウェイ→土合山の家泊

6/6（火）土合から一ノ倉沢出合（見物）→土合まで電気バス→路線バスにて水上で同行の廣瀬・山根と別れた。廣瀬はバス終点上毛駅迄行き→新幹線→羽田→大分

谷川岳山行は天気にもぐまれ順調でした。

行動ペースは、廣瀬・山根が快調で笠原が遅れ気味でした。

ロープウェイ上りが10時頃だったので時間余裕がなく、運転終了17時に間に合わせました。→帰宅後の疲労感は軽度でした。

以上、笠原

●笠原さん、写真有難う。私も天神平のリフト上部からおきの耳やトマの耳などスマホで写したが貴殿の方が鮮明です。処で車のところに戻ろうとして、時間もなくなったので、リフトのオジサンに近道を教わり、索道の下の踏跡をたどり、降り始めたところ途中でトレールが消えた。やむなく沢筋をたどったが大岩がごろごろした荒れ沢になり、水中に転倒したり、スリップしたり悪戦苦闘、駐車場に着くまで3時間以上かかり、一時はビバークも覚悟した。単独で沢下り等するものでないといまさら納得した次第です。遭難騒ぎにならずホッとした。くわしくはお会いした時に話します。谷川岳合宿参加の皆様へ（打矢）

●6月5～6日の蓬峠～朝日岳山行は、長谷川の体調（脊柱管狭窄症）が回復せず中止としました。行方さんには大変お世話になりました。4日は水上山荘に駆け付けますのでよろしくお願いいたします。（長谷川）



谷川岳一ノ倉沢



鹿間 OB

行方 OB



衝立岩



谷川岳（トマの耳 オキの耳）



谷川岳山頂直下（笠原 廣瀬 山根）

●一人でロープウェイを使い、一足先に谷川岳に登っています。ガスって来たので、下ります。3時までには、宿の水上山荘へ着きます。(柴原)

●谷川合宿楽しかったです。ご苦労様でした。金子様 新井様一晩同宿楽しかったです。6日は朝5時に起きてしまい、午前中の運転は眠くて辛かったです。日本海の能生に出て、ズワイガニを買い、糸魚川から松本まで街道を走りましたが、道路工事が多くて時間を食いました。天気が良くて白馬から大町迄の後立山は絶景でした。見慣れた山々ですが、写真送っておきます。帰宅は午後8時、2日間で700キロ近く走りました。FITハイブリッドのおかげで、使ったガソリンは30Lでした。23KM/Lです。取り合えずご連絡まで。(斉藤)

いろいろお世話になりました。

●とても良い宿で良かったです。紅葉も良さそうで家内に話したら目を輝かしていました。帰りは名胡桃城址と沼田城址を見学して帰宅しました。中々行く機会が無く有益でした。アマダで頂いたサラミを皆で3等分に分け、毎晩ワインを飲みながら楽しんでいます。家内もおいしいサラミと感心していました。ありがとうございました。(金子)

●金子さんと沼田の城址巡りをして帰宅しました。走行距離は330Kmでした。スバル10Km/Lです。ホンダ車は立派です。(新井)



朝ご飯食べたら谷川岳登山だよ

2. 暑気払いだよ全員集合！(8月26日)

～2023年稲門山の会暑気払い・早大山の会加藤会長歓迎会～

稲門山の会暑気払い・早大山の会の新会長歓迎会にご参加いただき、ありがとうございます。実は、この暑気払いは昨年の夏に、吉田OB(S38年卒)から「コロナで何年もみんなとお酒飲まないで死んでも死にきれないよ～」と手紙をいただき、昨年の夏に開催しようとしたところ、オミクロン株の大流行で流れて、宿題となっていたものです。

今回、定員を越える出席をいただき、秤OB(S39年卒)にご尽力により、早大山の会(学生の会)の新会長にお迎えした加藤健一郎氏の歓迎会も一緒にできて、感無量です。久しぶりに3時間という長時間にわたって無礼講の宴会を開催することが出来ました。やはり座敷で膝を交えて話し込むのは良いですね。

この暑気払いの準備をしてくれた米山OB(S53年卒)が直前にコロナに罹り欠席となり残念でしたが、宴会部長の重責を真っ当していただきました。ありがとうございます。

OBの皆さん、百歳まで生きて、死ぬまで山の会の人生を楽しみましょう。完全燃焼ですよ。現役学生の皆さん、OBなみとはいいいませんがもっとバカになって学生時代を謳歌しましょう。加藤会長、そんな学生のこと頼みますよ。では、来年の総会・新年会でお会いしましょう。稲門山の会代表 行方正幸

1. 日時：8月26日（土）12:00-15:00
2. 場所：完之荘 大隈庭園内
<https://www.waseda.jp/somu-d2/kaigishitsu/#link2>
3. 料理：リーガロイヤルホテル（たん熊北店）
4. 会費：OB 8,000 円（料理、飲み放題、税サ込み）
 学生 2,000 円（同上）
5. 参加者（敬称略にて）

●新会長

加藤 健一郎（早稲田大学総務部入学センター）

●学生（4人）

海崎真穂（M1年）

櫛舎裕太（4年）

羽山航平（3年）

木村亮英（3年）

●OB（会員番号順 15人）

宮野準治（S34年卒）

奥様

滝沢信一（S34年卒）

打矢之威（S37年卒）

吉田 稔（S38年卒）

金子治雄（S41年卒）

新井昭夫（S46年卒）

加賀谷欣治（S50年卒）

行方正幸（S50年卒）

柴原 至（S52年卒）

鹿間行喜（S52年卒）

三宅辰幸（S52年卒）

本田伸樹（S53年卒）

山路 淳（S53年卒）

西山 透（S54年卒）



大隈庭園完之荘



行方代表挨拶



宮野 OB

奥様

加藤会長



新井 OB

打矢 OB



滝沢 OB

吉田 OB



司会する柴原 OB



新井 OB



金子 OB



加賀谷 OB

三宅 OB



宮野 OB 奥様



山路 OB

本田 OB

西山 OB



鹿間 OB



海崎前々幹事長



まあ一杯いこうや！



櫛舎前幹事長

羽山幹事長

木村会計役員



盛り上がり最高潮！！



校歌斉唱



早稲田！ 早稲田！ 早稲田！



フレー フレー 山の会！！

●米山様の周到的な準備により本日、新会長歓迎、暑気払いは愉しく成功裡に実施できました
せつかく準備していただいた米山様が欠席のやむなきに至り残念な感もありましたが...。
有難うございました(鹿間)

●お蔭をもちまして 2023 年暑気払い、大変楽しく過ごさせていただきました。加藤新会長とも懇談
させていただき、登山の深い経験とともに新会長の下で山の会の洋々たる前途を見た思いです。行
方代表を始め、稲門山の会の運営に当たられている皆様には、本当に感謝の念しかございません。
(本田)

●41 卒の金子です。先日の暑気払いの幹事、ご苦勞様でした。

再三の親切なご案内もありがとうございました。

お陰様で、新会長ともお話ができたし、楽しいひと時を過ごすことができました。

学生会員も多数いると伺い、また何よりも行方代表や貴兄のご努力で、若い世代の異なる

OBの人たちが大勢顔を揃え、とても悦ばしく感じます。

私など大したことはやってきませんでしたが、それでも学生共々、会が存続が存続する姿に接して
喜ばぬOBなど誰もいません。そんなOB連を知っているからこそ、行方代表や貴兄に敬意を表し
ます。今後もよろしくお願いいたします。(金子)

不要かと想いますが、当日の完之荘と校歌斉唄をリードした三宅さんの画像を送ります。

●米山様 皆様。企画等ありがとうございました。楽しい時間を過ごさせていただきました。

皆様本日はありがとうございました。大遅刻をかましてしまったせいでお話しする時間が短く残念
ですが、またお会いする時にでもお話しさせていただきたいです。楽しみにしております。(海崎)

3. 早大山の会加藤会長について



加藤健一郎。1983 年生まれ。千葉県で育つ。



小学生の時はボーイスカウト。中学生の時はサッカー、高校ではテニス三昧。



海外や観光に興味があり立教大学社会学部に入学。1年生の時にハイキングクラブに入部。



2年生の時に山岳部に入部し、少数精鋭でアルパインクライミングを実践してきた。



4年生で山岳部の主将となり、ヒマラヤ合宿アイランドピーク 6,189mに登頂。



5年生で、日本山岳会学生部のヒマラヤムスタン遠征隊に参加。未踏峰等に登頂。



卒業後三菱重工に入社。2009 年に早稲田大学奉職。現在早稲田大学総務部入学センター勤務



2年前まで立教大学山岳のコーチをしており、澗沢岳の西尾根を登った。

4. 2023 年の夏の記録

(1) 水無川本谷遡行の記録

齋藤壮呉(M2年)

日程) 2023/6/17 天候快晴

メンバー) 修士 2 年齋藤, 修士 1 年海崎

行動記録) 8:40 大倉バス停 - 9:45 戸沢山荘 - 11:45 F5 上 - 13:15 F8 の大滝 - 14:20 塔の岳 - 16:35 大倉バス停 登 5h40min, 下 2h15min

昨年 3 月に櫛舎と海崎と挑んだ水無川本谷だが, そのときは悪天候もあって F6 までとして書策新道で下山したため, リベンジに海崎とともに塔の岳まで遡行した。

渋沢駅に集合, 梅雨間の晴れた土曜日であるためにバス停に長い列ができていた。久しぶりにその光景を見たと思ったが, 山に登っていなかったわけではない。丹沢には今年の秋から何回か来ていたがいつでも駅から歩いていた。今回はなんだか少しだけズルをした気になりながらバスに揺られて大倉に到着。大勢が表尾根のほうに歩いていく中, 二人で戸沢林道に向かう。

人気の沢であるため人が多いと嫌だなと思っていたが, 全くの杞憂で遡行中誰にも出会わなかった。この週は月曜から木曜までずっとちらほらと雨が降っており, 案の定水量は多かった。記憶に残っているのが 3 月のものである分, 余計に水が多く感じられた。もしかしたらまた書策新道にエスケープかと考えながら遡行を開始した。3 月のときとは違い, 積極的に小滝などを楽しみながら登った。F2 は去年の記録を見ると濡れない右の壁を登っていたが, 最後がすこしせり出していて乗り上げづらいので, 今回は水流左の階段状をシャワーを浴びながら登った。今回は F3(か, F4)と F6 でロープを出した。F3 は落ち口へのトラバースがしびれるいいクライミングだったが, 途中にきめていたナッツが支点を作ってロープを引き上げるときに外れてしまった, もっと経験・トレーニングが必要と思った。F6 のチョックストーンはやはり足の置き場がなく, 残置を引っ張って乗り上げた。次は残置を使わず自分でプロテクションをとってエイド的に登ってみたい。F8 の 20m は 2022 年の遡行ではたどりつかなかったのが初見で, 圧巻だった。また, 水量の多さもその迫力に寄与していたと思う。右のルンゼを上がるとロープがあったのでそれをたどると滝の落ち口までついた。F9 はのぼれそうに見えたが順層の岩がはがれやすかったのが巻いた。ツメは長くなく, 尾根をたどってすぐに登山道に出た。

山頂で靴を脱ぐと数匹のヒルに吸われていた。はがしていると横にいたおばちゃんが塩をくれた, ありがたい。昨年度の葛葉川の遡行で被害にあわなかったのが大丈夫と思っていたが, やはりいる。次からは塩をもっていこうと思う。石でつぶさなくても塩漬けにしまえば死ぬからこちらとしてもやりやすい。おばちゃんいわく繁殖力が半端ないので殺しておかなければならないとのこと。

家に帰って靴をだしてみたら, よく確認していたはずだが 3 匹もでてきたのでベランダで塩漬けにした。いい登山だった。



塔ノ岳山頂で(海崎、斎藤)



F2を登る海崎



F8と海崎

(2) 軍刀利沢廻行記録

木村亮英(WMS 3年)

日程) 2023/08/02

メンバー) 3年木村、2年谷口 天候) 晴れ

行動記録) 8:00 南郷バス停 - 9:00 入渓地点 - 9:50 大滝 - 10:50 10 m ナメ滝 - 12:00 三国峠 - 13:20 井戸バス停 2年

谷口が沢登りを始めたということで、二人で福島沢の前に経験を積むことにした。場所は去年 齋藤先輩に連れて行ってもらった軍刀利沢にした。私が初め行った沢で廻行時間は短いながら、小滝をガツガツ登る楽しさがあった。

武蔵五日市駅からバスに乗り南郷で降りるとすぐに林道歩きが始まる。林道をどんどん進んでいくところだったが、私が虫に刺されるアクシデントが起きた。ハチのような虫にしつこく追い回されていてついに頭の上に止まったので私はじっとしていた。しばらくすると離れていき刺されなかったことに安堵したが、谷口が私の頭頂部から血が出ていることに気づく。谷口の持参していた水で血を流し、虫刺され薬を塗った。幸いその後の行程に支障はなかった。後で調べるとブヨやアブは吸血のために積極的に人に寄ってくるそうだ。その場合は振り払う必要があるが、ハチと見分けが付きにくい種もあるとのこと。虫刺され薬と真水は常備しておきたい。

大滝を巻く谷口 小滝を登る谷口 まったく危なげなくついてくる 最後の滝は日があたっていて綺麗だった。井戸バス停は朝と夕の一日 2 便しかなく、16 時までバスはない。もっとゆっくり廻行するつもりだったが、無意識の焦りのせいか 12 時には尾根に上がってしまった。仕方がないので井戸バス停で寝て待つことにした。バス停は日陰で過ごしやすいが時々虫が飛んでくるのは気持ちの悪いものではなかった。バスの運転手さんはこの辺りはハチが多いと言っていた。昨年廻行したのは 6 月下旬で虫はほとんど気にならなかったもので、沢は梅雨明けすぐが、快適なのかもしれない

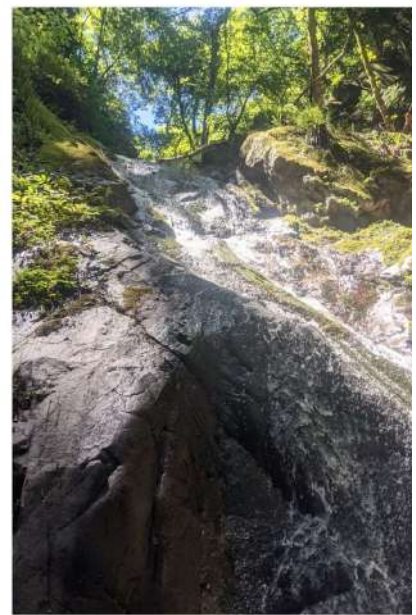


大滝を巻く谷口

まったく危なげなくついてくる



小滝を登る谷口



最後の滝

(3) 自宅から富士山頂を目指す

笠原 豊(S40 年卒)

自宅からの富士登山を試みたが須走口本七合目の見晴館で撤退として、8/22 (火) 18 時すぎに帰宅しました。以下、富士山行について報告します。

1. 狙い

- 1) 元々、京都聖護院の富士山峯入り修行参加が発端でしたが、私の登る速度が遅いので参加申込を辞退し、別のルートからマイペースで登頂して会えればよいなあと考えたこと①
- 2) 富士山測候所で大気中のマイクロプラスチック濃度を観測・研究されている早大環境資源工学科の教授に運よくお会い出来ればと思ったこと②
- 3) 富士山へは自宅から自分の足で登ってみたいと思っていたこと③

これらを欲張って組合せて、自信過剰の計画をたてましたが、熱中症警戒アラートが続けて発令される暑さの中での強行となった。

2. 実行初日 (8/19)

前夜(ズーム会合後)の睡眠時間すくなく、自宅 3 時出発の歩き出しから右股関節に若干の違和感があり、戸塚駅を階段で越えるころには股関節周囲の筋肉の疲労とこわばりがでてきました。

道路からの照り返しが熱く、コンビニの 2/3 箇所へ次々と入店しては飲物を摂ったりしたのですが、店内に椅子がなく、店外で腰を下ろすには暑く、休憩を殆ど取れないまま、横浜→藤沢市→海老名市→厚木市→伊勢原と歩き続けました。

秦野市に近づくと、ついに疲れと限界を感じて、エスケープすることにして路線バスを待ちました。バスで小田急線鶴巻温泉駅へ向う途中で、下車した客が大音を立てて転倒し、救急車騒ぎが起こり 27 分ロスしました。

小田急渋沢駅で下車し、投宿しました。右脚は宿の階段で持ちあがらないほど疲れていました。日中の暑さで身体が脱水寄りだったことも原因したかもしれ



太陽館前から夜明け前



日の出



登山道に朝日が射す



本七合目見晴館 3200m

ません。

歩数=54,669 歩

3. (8/20)

交通機関を使って須走へ移動し、須走浅間神社に寄ってから扇屋へ泊まりました、4階の風呂から富士山を見渡せる素晴らしい宿でした。

夜、TV視聴中に眠くなりました。須走は以前60歳に因んで、往復標高差60ヘクトメートルを狙って、須走の谷底を午前零時出発したことが懐かしかったです。

4. (8/21)

朝1番の路線バスで須走口5合目へ行き、須走ルートを登りました。身体は疲れが残っていましたが、以前の登山より減退を感じました。

登山速度が遅れ、予約済の太陽館へ電話して、「辿り着けないからキャンセルにと連絡して手前の山小屋へ素泊を申込み」と、満室だからと断られました。

夕暮れが近づきつつありましたが太陽館へ「キャンセルの取消し、日が暮れても行く、いざとなったらビバークの用意もしてある。」と連絡して重い脚を動かしました。

登山すると心拍が騒ぐ状態になり、速度が衰えるばかりでした。

太陽館へ夕暮れ迫る18:35に着きました。

消灯20時まで時間少なくゆっくり食事できず、他の客が寝ているので二段寝室の空間は不自由で、翌日のパッキングも遠慮しつつでした。

5. (8/22)

夜1時間ごとにトイレに起きて睡眠感少なく4時を迎えてしまいました。出発準備が不自由なままの用意で、小屋前に御来光が迫っていたので、観てから出発しました。



見晴館の屋根越しに山頂へ向かう登山者と山小屋



見晴館前での記念撮影



太陽館へ戻り、預け荷物を回収した



下山路の砂走

身体全体にじわーっと疲労感があり、(睡眠不足も影響してか) 動くと心拍数が反応し、立ち止まっても呼吸が追いつかず、心臓が鼓動し、負荷を掛けると頭脳にも影響するリスクを感じたので、歩が進みません。

見晴館 3200m まで何とか進みましたが、血中酸素飽和度への呼吸力の限界を感じて撤退としました。

下山ルート of 砂走は、踏ん張りの効かなくなった脚には負担でした。

登山者は外国人が多くいましたが、大柄な女性 が軽快な履物で砂走の砂礫で苦勞していました。

私は安全性を考慮して登山用ヘルメットとダブルストックで行動しました。

・・・この日の歩数=14,451 歩、 適度の疲労を土産に、事故無く帰宅しました。

なお、空気の薄さは標高 2600m あたりから頭で感じ、標高 3000m を越えると、心臓が飛び出すような不快感が始まり呼吸が追いつかなくなる感じがして、見晴館の 3200m を登山活動の私的限界としました。

今回、パルスオキシメータを持参せずモニターできませんでした。

結果として、上記①②③の目標は未達に終わりました。未達要因として次のことなどが思われます。

1. 計画が一般的でなく、当事者の能力から見れば(所謂)無理があったかも。
2. 暑熱で身体機能にストレスが加わり熱疲労も生じたが並行しての回復力が追いつかなかった。
3. 睡眠も途中休憩も不足感は無かったが実際は不足していたようです。

自信過剰の効果は無く、以前の実績も通用せず、暑さにやられました。

(付記)

「聖護院富士山峯入り修行」を仕切っている畠掘さん宛に、見晴館で「撤退する」旨を送信しておいたら、返信があり、

「われわれもうさぎ組とかめ組にわけましたが、うさぎ組のほうで故障者が出てべた遅れ。世の中計算どうりには行かないですね。・・・」とありました。

・・・以前参加したときには、鈴川の海水で身を清め、平安時代からの古道を辿るのですが、今年の暑さは厳しかったであろうと推察しました。



荷揚げのブルドーザー

～お知らせ～

胡桃哲様(S37 年卒)と関一雄様(S38 年卒)がご逝去されました。

令和 5 年から米山不器 OB(S53 年卒)作成した一斉配信可能なメーリングリストで情報発信しておりますが、今回米山 OB の配信でいくつかエラーで戻ってきた会員のアドレスがありました。その方の年代に近い松村啓之亮 OB(S38 年卒)に依頼して、調査をお願いしたところ同年代の 2 名の OB の方が令和 5 年にご逝去されたこと知りました。以下、松村 OB からの連絡を引用します。

胡桃哲 OB(S37 卒) 昨年 11 月、腎臓の疾患で緊急入院し数度の入退院を繰り返しておられましたが、今年 3 月 8 日に逝去されました。85 歳でした。映画のシナリオや小説の作家として活躍され、お元気なころは気象部の OB 会の小旅行にはご夫妻で参加されてもいました。

関一雄 OB(S38 卒) 昨年「誤嚥性肺炎」で緊急入院し快方に向かっておられた由でしたが、あと 2 日で退院の予定の 7 月 7 日 84 歳で卒然と逝去された由。8 月 27 日（日曜日）に四十九日の法要と納骨を済まされたとのこと。80 歳になるまで多くの大型絵画展の企画宣伝の仕事をされ、自ら描かれた作品（絵画）の展覧会は母校の湘南高校の関連の人達で来年には行われるようです。学生時代は愉快的な山仲間でスキーの名手でした。

稲門山の会として、謹んでお二人のご冥福を祈りますとともに、ご家族に連絡をとってくださった松村 OB に御礼申し上げます。

さて、新しいメーリングリストには全会員約 6 割、約 150 名の稲門山の会(OB 会)と早稲田大学山の会会長及び学生がリストアップされており、毎回のメール配信の対象となっています。今回、メーリングリストには情報発信だけでなく、訃報などの会員相互の連絡手段としても価値があることが分かりましたので、是非皆様に活用していただきたいと思います。殊に、身近な会員の訃報に接した際には、まず第一報をメーリングリストに投稿をして頂けると助かりますので、よろしくお願いいたします。

メーリングリスト宛先: wms-all@ml.thingsjp.com

なお、このメーリングシステムの仕組みは、今年の 2 月総会で新役員に就任した米山 OB の初仕事として構築していただいたもので、それ以来彼が管理更新をしてくれています。今後も配信不能時に近い年代の OB 会員に調査を依頼することがありますので、よろしくお願いいたします。

稲門山の会代表 行方正幸

> 稲門山の会代表 行方正幸(S50 年卒)

> 〒285-0807 千葉県佐倉市山王 2 丁目 39-3

> TEL: 080-3701-3421

> メール: yukuemnamekata@gmail.com
